

令和6年度 江戸川区立小松川小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心豊かな 思いやりのある子</li> <li>○よく考え 進んでやりとおす子</li> <li>○健康な 明るい子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかる」「できる」喜びを味わい、確かな学力を身に付けられる学校。</li> <li>○自他ともに大切に作る知・徳・体のバランスのとれた児童。</li> <li>○一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる教師。</li> </ul>
--------	--	--	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 「教科担任制」による取組が定着し、質の高い授業の提供や教員間での協働が円滑に行われるようになってきている。</p> <p>&lt;課題&gt; 児童の自己肯定感については、さらに高めることができる。「わかった」「できた」「たのしい」と感じられる経験などの成功体験を積み重ねられるようにしていく必要がある。</p>
-------------------	--

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上アクションプランを作成し、具体的な数値目標と手立てを決める。</li> <li>・一単位時間の中でめあてを明確にし、振り返ることのできる授業を確立する。</li> <li>・一部教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開する。</li> <li>・一人一台のタブレット端末を有効活用し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力状況調査で「授業の内容はよく分りますか」の肯定的回答90%以上。</li> <li>・全国学力状況調査の国語・算数の都平均プラス3ポイント以上。</li> <li>・年に3回の授業観察で授業改善に向けた課題を具体的に把握し改善を目指す。</li> <li>・タブレット端末を活用し深い学びとするとともに、ミライシードで個に応じた習熟を深める。</li> </ul>	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「授業の内容がよく分りますか」の肯定的な回答は国語85.4%、算数78.2%であった。</li> <li>●全国学力調査では、東京都平均に対し、国語±0%、算数-8%であった。</li> <li>○授業観察において各自の授業改善の課題を把握し改善に取り組んでいる。</li> <li>○タブレット端末を活用し、ミライシードに取り組み、個に応じた学習を試みている。</li> </ul>		
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書科年間指導計画や学校図書館全体計画に基づいて、他教科との関連を図り探究的な学習を推進していく。</li> <li>・週4回の昼読書や月2回の読み聞かせ、年3回の読書月間を活用し、読書活動を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づいて、読書科と他教科の連携を図る。</li> <li>・年間35回以上の学校図書館を利用した読書科の時間を実施する。</li> <li>・読書月間では担任等を入れ替えて読み聞かせを行う。</li> <li>・地域図書館から月1回の団体貸し出しを活用する。</li> <li>・年3回以上探究的な学習の成果の発表をする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画に沿って、読書科と他教科の連携を図っている。</li> <li>○6月の読書月間では、担任を入れ替えて読み聞かせを実施できた。</li> <li>○地域図書館から月に1回の団体図書を借り活用した。</li> <li>●全学年において探究的な学習に結び付けることができていない。</li> </ul>		
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる喜びを感じることができる授業づくりの推進。</li> <li>・休み時間の外遊びの推奨。</li> <li>・東京都体力・運動能力調査を分析し、指導に生かす。</li> <li>・食育・健康教育の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都、区での授業を参観した教員に伝達研修を実施させ、全教員で情報共有する。</li> <li>・12月から1月にかけて全校で持久走に取り組み、体力を高める。</li> <li>・都体力・運動能力調査の結果をすべての学年、種目で全国平均以上。</li> <li>・栄養士や養護教諭を中心に食育、健康に関する教育を充実させる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都や区の授業を参観したり、校内で研修することができていない。</li> <li>○体力・運動能力調査では、ほとんどの学年、種目で東京都平均を超えている。</li> <li>○栄養士、養護教諭を中心に、食育、健康教育に取り組んでいる。</li> </ul>		
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり。</li> <li>・エンカレッジルームの効果的な活用。</li> <li>・副籍交流の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内外の掲示物、板書等、ユニバーサルデザインを意識した環境を整える。</li> <li>・エンカレッジルームの使用方法について検討し、必要な児童が必要な環境において気持ちをコントロールできるように整備する。</li> <li>・月に1回、学校だより等を交換したり、読み聞かせや学級活動など可能な範囲で交流したりする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインに沿った教育活動環境を整えることができた。</li> <li>○エンカレッジルームの活用について再検討し、必要な環境を整えた。</li> <li>○特別支援学校の児童が授業に参加するなど積極的に推進できた。</li> </ul>		
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・いじめに対し、未然防止に尽くすが早期発見、早期対応を組織的に適切に行う。</li> <li>・ふれあい月間や学校生活アンケートを実施し、児童の実態をつかむ。</li> <li>・hyper-QUを実施し、学級内での満足度を的確にとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校、いじめについて、週に1回の生活指導夕会で情報共有し早期対応に努める。</li> <li>・年3回のふれあい月間、学校生活アンケートで児童の変化や悩みなどを早期にとらえ対応する。</li> <li>・hyper-QUで学校生活不満足群をゼロにする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校、いじめの情報を迅速に共有して対応することができた。</li> <li>○ふれあい月間において、不安や悩みのある児童に対して、複数の教員で丁寧に対応できた。</li> <li>●hyper-QUで学校生活不満足群が、各学年で1、2名存在する。</li> </ul>		
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページに児童の様子を中心に掲載し、保護者や地域の方々に学校での様子を分かりやすく周知する。</li> <li>・年に4回の学校公開では、事前の周知を徹底し、より多くの保護者の方や学校評議員の方に、実際の学校・児童の様子を見ていただく機会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に3回以上、ホームページ上に学校の様子を更新する。</li> <li>・年に4回の学校公開と参観に関するアンケートを実施し改善へと生かす。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページを週3回の頻度で更新し、学校の様子を伝えることができています。</li> <li>○学校公開や学校説明会などでは多くの保護者、地域の方が児童の様子を参観している。</li> </ul>		
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート、学校関係者評価の実施により、課題を明確にし組織的に振る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、ホームページ等で学校の様子を随時お知らせする。</li> <li>・学校評議員には年3回、学校参観の機会を設ける。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校だより、ホームページ等で学校の教育活動についてお知らせしている。</li> <li>○学校評議員の方々には、学校経営について説明したり授業公開したりして助言をいただいている。</li> </ul>		
特色ある教育の展開	・教科担任制を実施し、専門性を生かした授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部教科担任制の実施し、専門性を生かした授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語、社会、理科等で教科担任制を実施し、学習指導の質を上げる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第3～6学年において教科担任制を実施している。専門性を高め組織的に全児童を指導している。</li> </ul>		
	・自己肯定感を高めるための指導方法を校内研究として検討し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全般において、児童の自己肯定感を高める等の工夫を校内研究会で実践を踏まえて協議する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の校内研究会授業で、教員相互に学び合い、自己肯定感を高めるための指導方法について実践例を基に授業力向上を図る。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感を高める実践例を共有し、さらに研究を深めようとしている。</li> </ul>		